

A photograph of four male Japanese fencers standing on a podium during the Paris 2024 Olympics. They are all wearing red Team Japan jackets with the Japanese flag and Olympic rings on the chest. The athlete on the far left is holding a gold medal. The other three athletes are holding silver medals. They are all smiling and looking towards the camera. The background is a blurred stadium filled with spectators.

オリンピック躍進の背景に ある協会改革

～なぜ日本フェンシングはここまで躍進できたのか～

公益社団法人日本フェンシング協会 会長 千田健一

本日の話の内容

1. フェンシング競技とは
2. 公益社団法人日本フェンシング協会概要
3. 2024パリオリンピックを振り返って
4. 日本フェンシングの躍進の背景・要因
組織・選手強化
5. 日本フェンシング協会の今後の課題

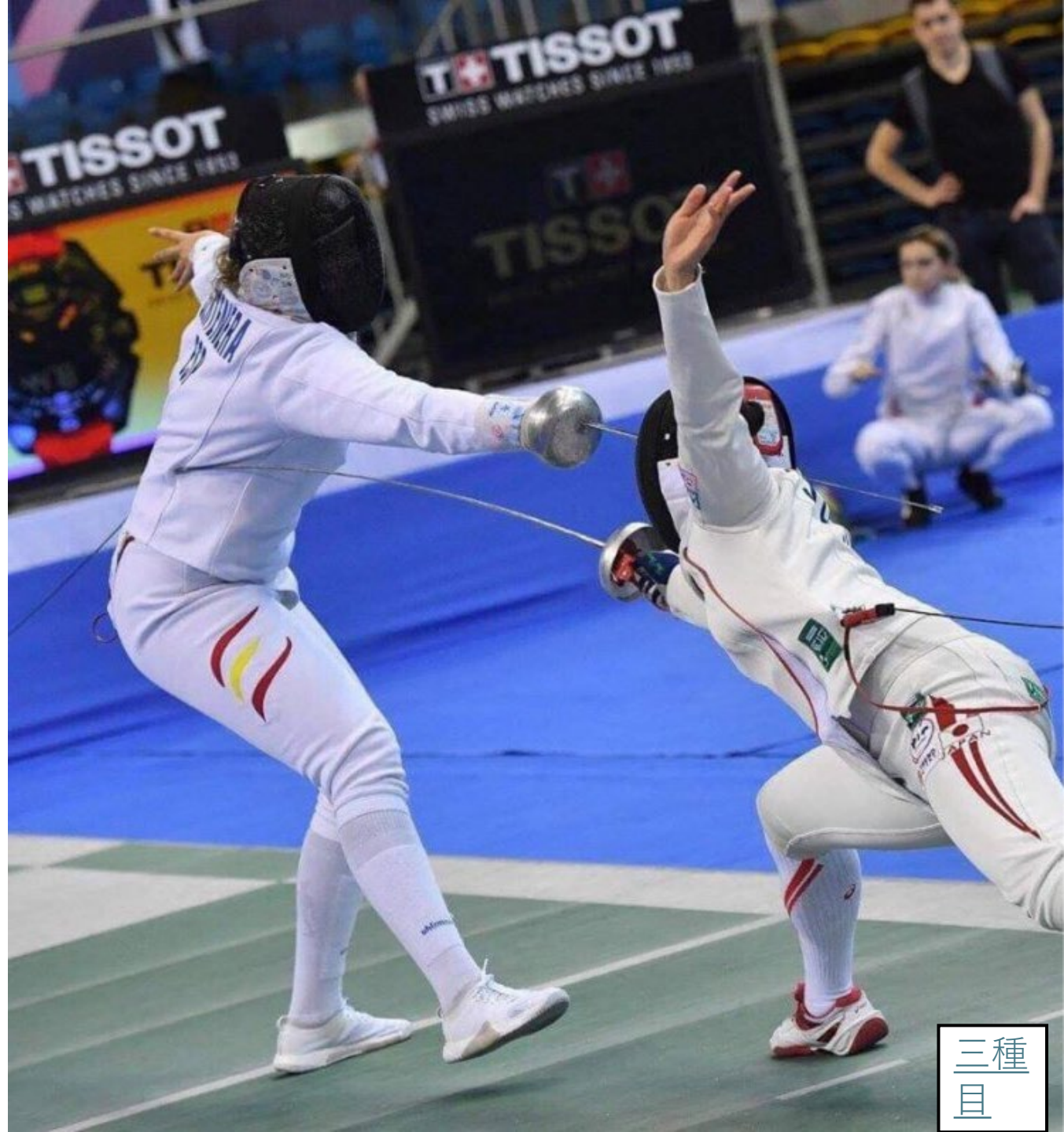
千田健一 経歴

- 宮城県気仙沼市出身、10歳よりフェンシング開始
- 気仙沼高校、中央大学フェンシング継続
- 昭和55年 モスクワ五輪代表（宇都宮商業教員）
- 昭和57年より宮城県高校教員（20年間）
- 全国高体連役員、日本協会強化委員歴任
- 令和元年 一般社団法人気仙沼市体育協会副会長
- 令和4年～公益社団法人日本フェンシング協会会長
- 令和5年～公益財団法人宮城県スポーツ協会会長

フェンシングとは？

フェンシングとは、中世ヨーロッパで発祥した、
剣を用いて突いたり斬ったりする武術です。
元々は戦闘術として発達したものが次第にスポーツ競技化しました。第一回オリンピックからの正式種目としても知られています。

「フェンシング(FENCING)」という言葉は
「FENCE(垣根・防ぐ)」からきていて、**自分の身を守る、名誉を守る、ルールを守る**
という意味を含んでいます。フェンシングの魅力は、**騎士道から来る礼儀正しさ、華麗なプレイ、頭脳的なかけひき、スピーディな試合運び、科学的なテクニック**などにあります。



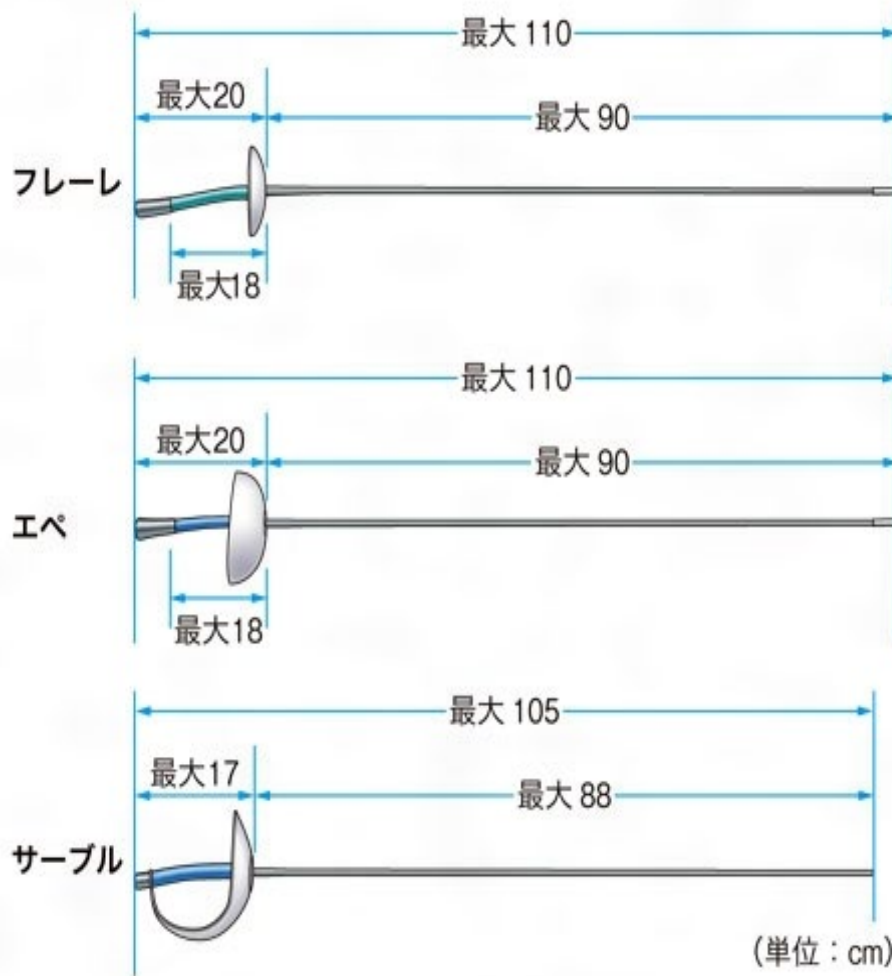
フェンシングには3つの種目があり、それぞれルールや有効面、使う剣の形が違います。



F:¥
ビ
デ

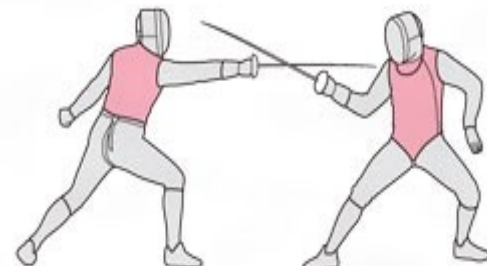
フェンシングとは？

剣の種類



刀身断面

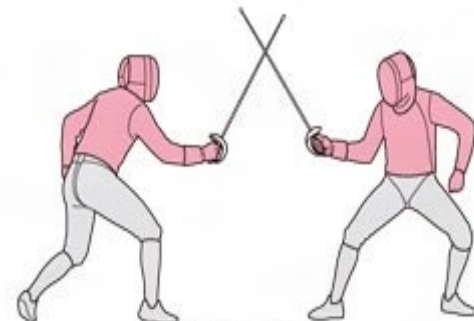
有効面



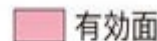
突きのみ



突きのみ



突きおよび斬り

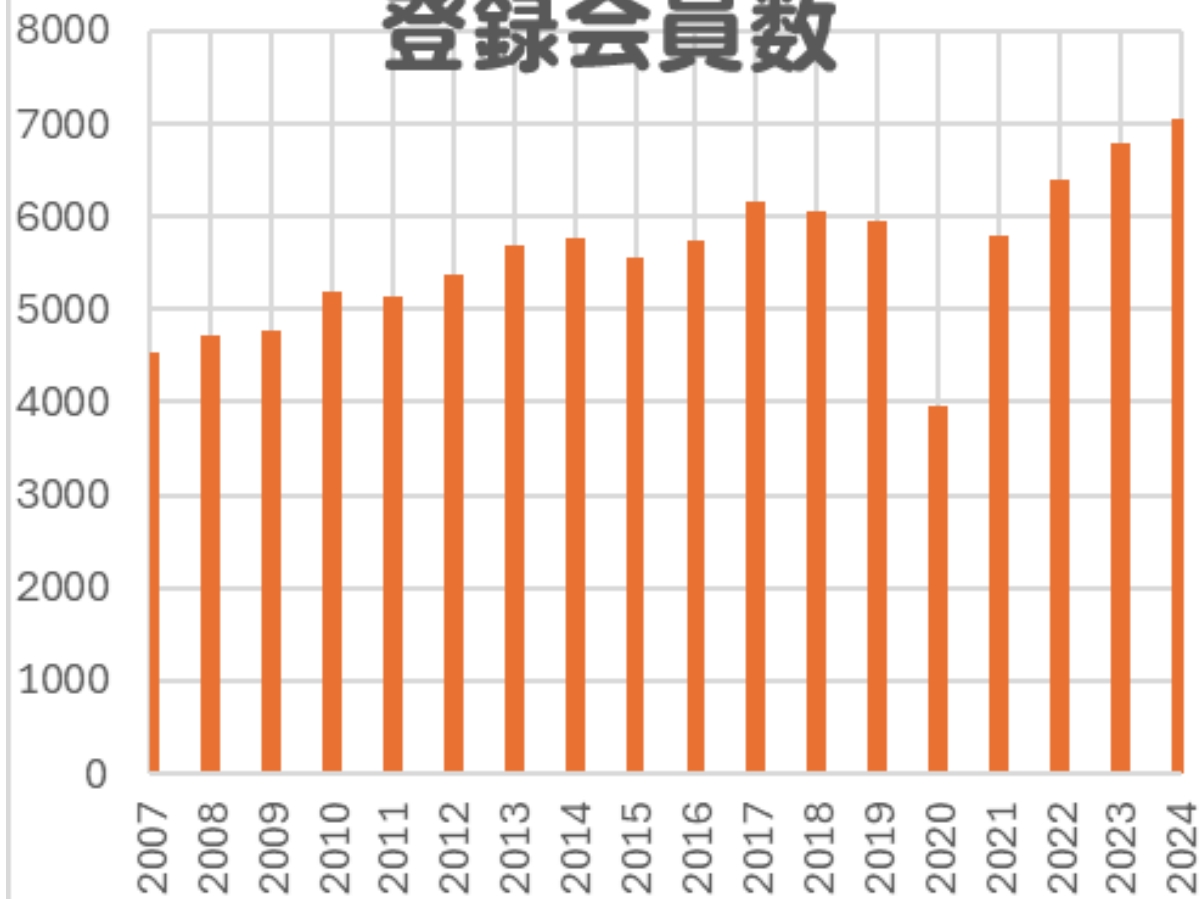


国際フェンシング連盟の公式競技会では、武器検査用ゲージで刀身の長さ、つばの奥行きや直径などを測定する

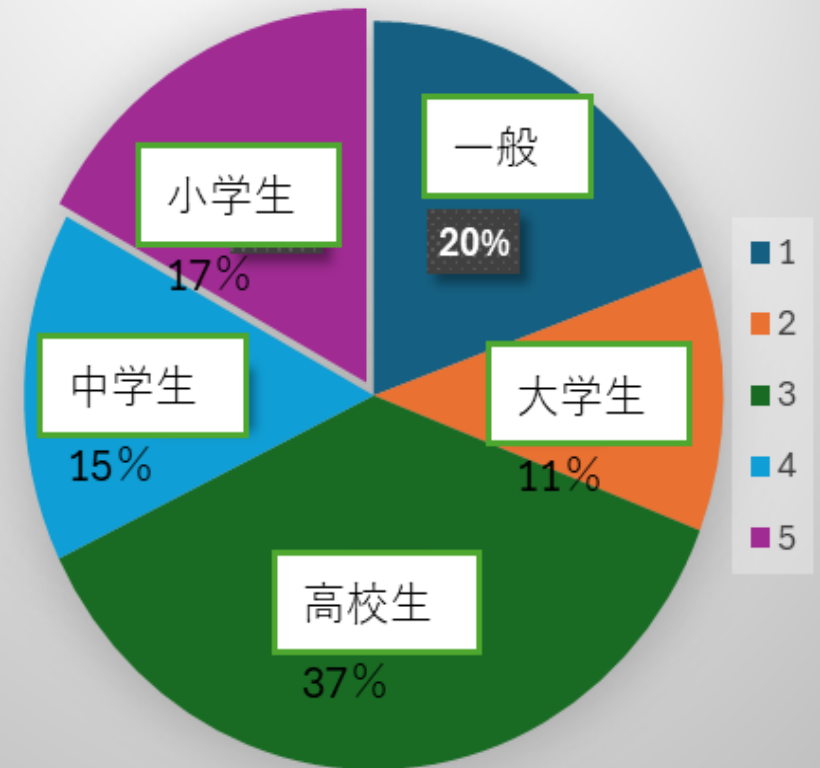
公益社団法人日本フェンシング協会の概要

- 昭和11年 大日本アマチュアフェンシング協会の名称で創立
- 昭和18年 太平洋戦争の戦線拡大により一時解散
- 昭和22年 名称を日本フェンシング協会と改め、再発足
- 平成3年 法人格取得（社団法人）
- 平成13年 JISSにおいてフェンシング専用練習場（4ピスト）
- 平成15年 初めて外国人コーチ（オレグ）招聘
- 平成25年 公益社団法人として認定、移行
- 令和元年 NTC-EASTにおいてフェンシング練習場（30ピスト）

登録会員数



登録会員比率（2023年）



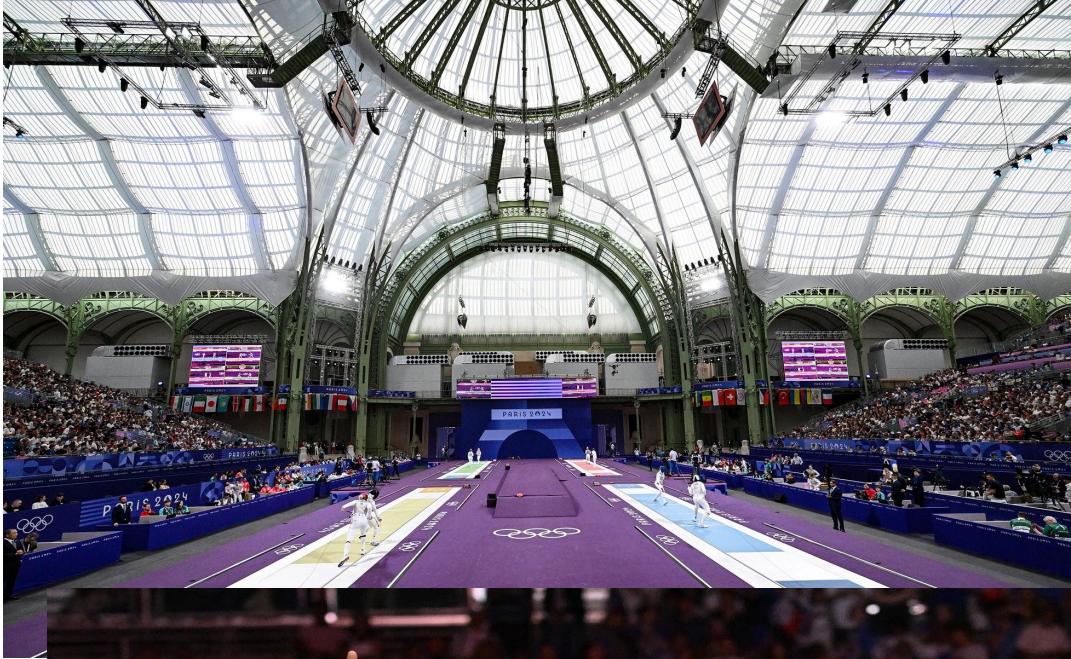
日本フェンシングの歴代日本代表成績

	フルーレ				エペ				サーブル			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体
1984 ロサンゼルス	14	9	27	8								
1988 ソウル	17	13	20	12								
1992 バルセロナ	23		33		51				41			
1996 アトランタ	41						40	11				
2000 シドニー	33		26						36			
2004 アテネ	9		15				28		31		15	
2008 北京	2		7		35		15		36		27	
2012 ロンドン	14	2	7	7			26				16	
2016 リオデジャネイロ	0		0		6		8		0		0	
2021 東京	4	4	6	6	6	1	16		30	9	13	5
2024 パリ	4	1	19	3	1	2	16		23		9	3

パリオリンピック前の世界ランキング

男子フルーレ			女子フルーレ			男子エペ			女子サーブル		
1	松山恭助	8	4	東晟良	8	3	加納虹輝	2	7	江村美咲	3
	飯村一輝	1 5		上野優佳	1 6		見延和靖	1 1		高嶋理沙	3 2
	敷根崇裕	2 8		宮脇花輪	2 1		山田 優	1 8		福島史帆美	4 2
	永野雄大	3 0		菊池小巻	4 5		古俣 聖	2 0		尾崎世梨	5 2

2024 パリオリンピック



フェンシング協会躍進の要因 1



フェンシング協会躍進の要因 2

フルール重点
から
エペ・サーブル
へ

長期合宿
(500日)

海外活動導入拠
点化での合宿

外国人コーチ
招聘

ジュニア
強化推進

サポート体制
環境整備強化

継続的な
選手強化

選 択 と 集 中 強 化

男子フルーレ集中強化
長期合宿の敢行



ロンドンオリンピック銀メダル

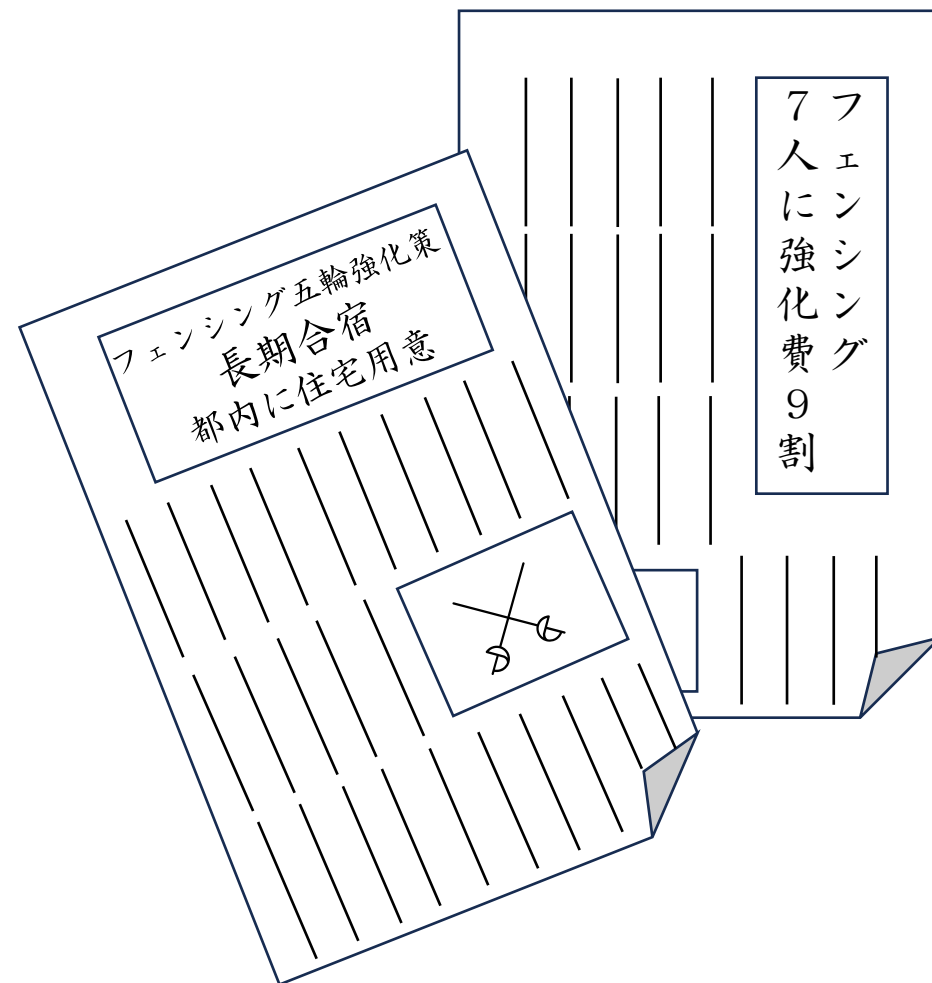


強化体制の拡大

- ・ 男子から女子へ
- ・ フルーレからエペ、サーブルへ



パリオリンピック
メダル 5 個獲得



外国人コーチの登用

2003 オレグ（ウクライナ）フルーレ

2009 サーシャ（ウクライナ）エペ

2010 マグロ（イタリア）女子フルーレ

2013 ウツチェ（韓国）サーブル

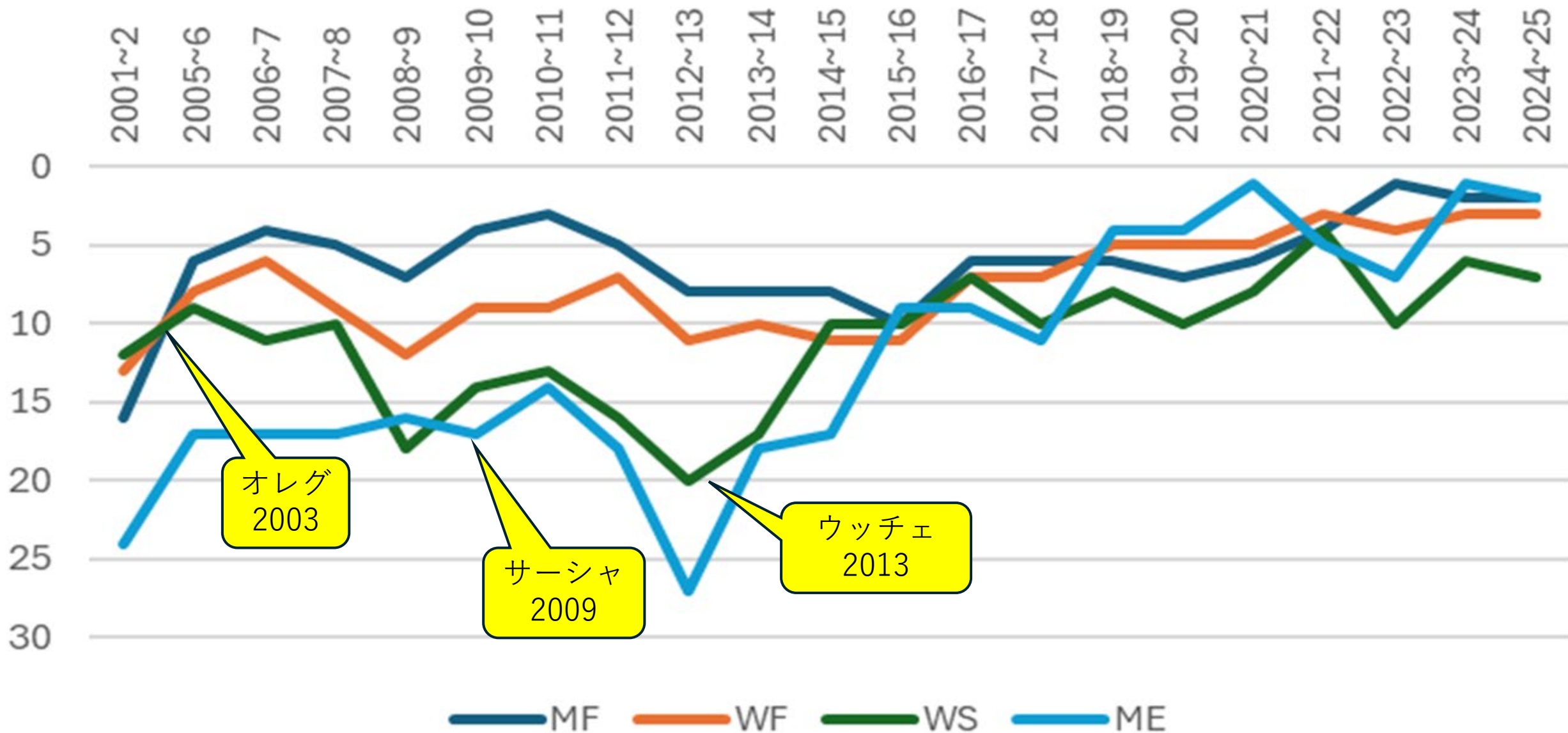
ゾルタン（ハンガリー）女子フルーレ

2017 フランク（フランス）フルーレ

2022 ジェローム（フランス）サーブル



ランキングの推移



外国人コーチ導入の効用

選手

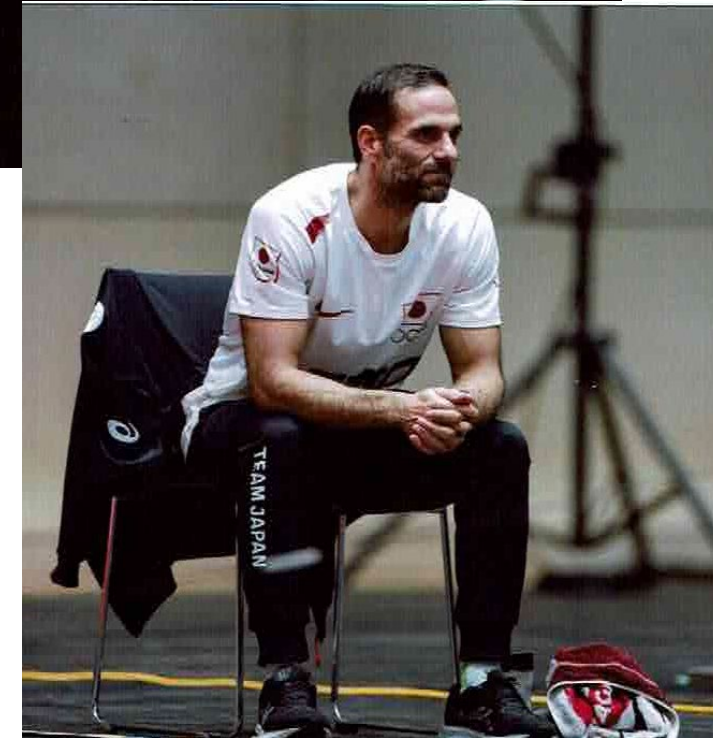
- ・ 世界基準の技術・戦略導入
- ・ 世界での勝ち方伝授
- ・ メンタルのケア
- ・ 判定の優位性

国内

- ・ 指導者育成
- ・ 選手選考での説得力

国外

- ・ 技術やルール等情報収集力高い
- ・ 選手・チーム・審判員の特徴把握
- ・ 活動場所の選定・手配



サポート体制の充実

1. 練習環境の充実

平成13年JISSに専用練習場（4ピスト）
令和元年NTCWESTに練習場(30ピスト)
全種目同時練習可能

（切磋琢磨、ライバル意識、情報共有）

2. 個人スポンサーの支援

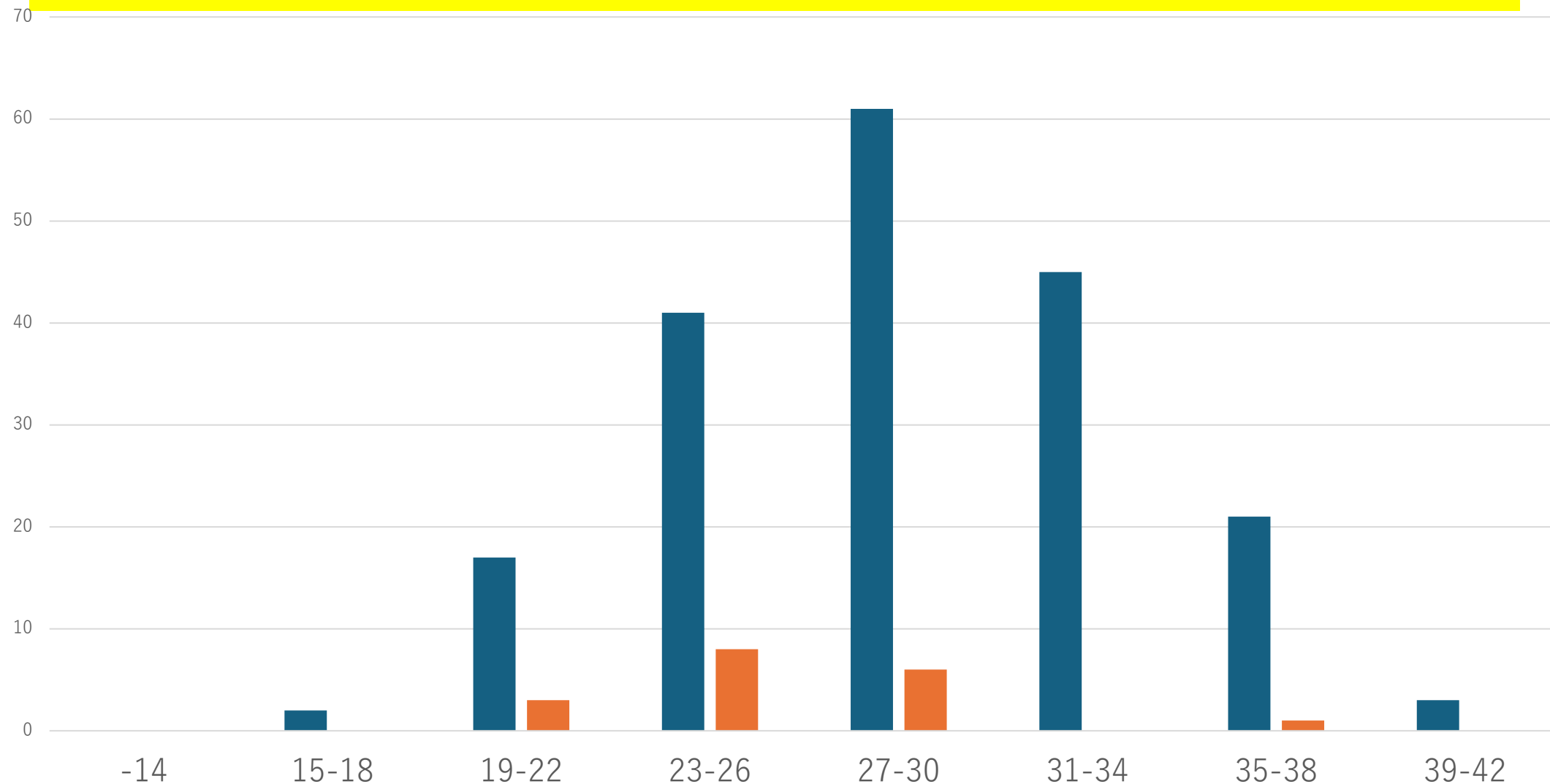
遠征費支援 セカンドキャリア

3. 事務職員の増員

海外遠征専門職員の配置

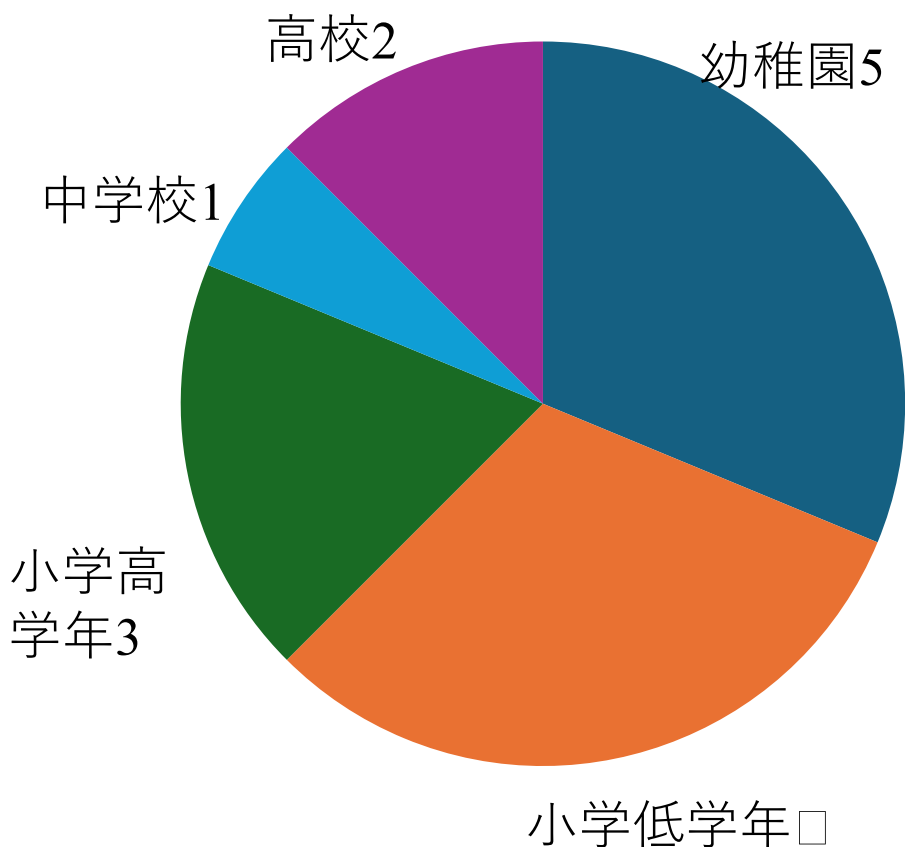


日本代表選手と世界TOP32選手の年齢分布



日本代表選手18名はパリ五輪代表、世界6種目TPO32選手2021年ランキングに基づく
(出所：FIE資料から千葉洋平氏作成)

メダリストフェンシング 開始年齢



ジュニア層の育成強化

1. エリートアカデミーへの参画（平成20年）
江村・高嶋（Wサーブル）永野（Mフルーレ）
 2. NAVIキャンプ事業の開始・・・国内合宿・海外遠征
ジュニア層の発掘・育成・強化
 3. 世界カデ選手権大会
2007年 男子フルーレ優勝（三宅諒）
 4. 世界ジュニア選手権大会
2008年 男子フルーレ優勝（淡路卓）
2017年 男子フルーレ団体優勝（松山・敷根他）
2022年 男子フルーレ優勝（飯村）
2024年 蚕糸フルーレ優勝（福田亮介）
- その他、山田・上野・菊池メダル獲得

日本フェンシング協会の今後の課題

- フェンシング人口増加・・・普及強化
- カデ・ジュニア層の強化
- 選手強化における拠点化
- 更なる組織構造の改革
- 財政の安定化・・・・・・・・マーケティング強化
- 人材の育成（指導者、事務職員、国際大会での審判員・DT等世界で活躍できる人材）

皆様方の今後のご活躍を
ご期待申し上げます

ご清聴に感謝します